

合格体験記

23年度 農業農村地理情報システム技士認定試験を受験して

大分県土地改良事業団体連合会

事業部 水土里情報室 河野 智弘

1. はじめに

近年、情報化社会の発展に伴い、農業農村整備事業の分野においても例外なく、情報の共有化あるいは施設管理システムの構築といったGIS技術を用いた整備が必須になりつつあります。

しかし、農業農村整備事業分野において、GIS技術やシステム構築に関する専門技術者は、まだまだ少なく、地理情報を生かした事業展開に対して大きな課題となっているところではあります。

農業農村整備・土地改良施設の調査、計画、実施及び管理について、今後のテーマでもある農業水利ストックマネジメントや耕作放棄地対策等、多岐にわたる情報を基に農村環境の保全管理に向けて、地理情報システム技術を有する専門技術者の育成が望まれています。

こうした背景の中、(社)土地改良測量設計技術協会により、「農業農村地理情報システム技士講習・認定試験」と称して、地理空間情報を活用した技術に関する講習及び専門技術者育成のための認定試験が開催され、技術者の育成・技術力の向上が図られています。

私が、「平成23年度 農業農村地理情報システム技士講習・認定試験」を受けるに至った経緯と本講習にて学び感じたことを体験記として下記に記します。

2. 受験の動機

私は、土地改良事業団体連合会の職員として、農業農村整備事業の新規計画・事業実施に関する業務に携わってまいりましたが、業務上ではCADによる図面作成や表計算ソフトを用いた数量集計が主となっており、情報はすべて帳票形式による整理を行ってまいりました。

本年度より、情報管理を主体とする水土里情報室に配属となり、地理情報システム業務に携わることから、地理空間情報に関する基礎知識・応用を習得するため、本講習会への参加及び受験を決意しました。

3. 受講内容

受講内容としては、

- 1 日目：農業農村整備分野におけるGISの取り組みについて～基礎知識・業務等への適用
- 2 日目：GISを用いた管理・情報化の推進について～検索や印刷（実習）
- 3 日目：地理空間情報整理業務仕様書に基づく実習～作成データの品質チェック等
- 4 日目：GIS基本ソフトを使ったアプリケーションの開発～地理情報標準の解説と

データ製品仕様書の読み方

5日目：認定試験

といった流れでした。

農業農村整備におけるGIS技術の取り組みや基礎知識として始まった講習は、非常に分かりやすく、それ以降の講義についても、親切・丁寧な内容で、事細かに情報管理の必要性及び業務に対する無限の可能性について、理解することが出来ました。個々の情報を地図上に属性として認識させ、複数の情報として管理することで多角的に表現でき、それらを活用し、業務の効率化・資料の簡素化が図れることに興味を持ちました。また、本講習の中で大半を占める実習についても、地理空間情報システムとしての必要最小限の知識を理解できるよう、綿密なスケジュールで構成されており、私の様な初心者から、業務で活用されている経験者に対して、きめ細かな講習となっていました。

4. 認定試験について

最終日の認定試験については、非常に緊張したのを覚えています。どの程度、把握できたのか？内心ドキドキしながらの試験でしたが、無事合格することが出来ました。

本講習を良く理解し、講義内容を復習しておくことで、基本的には、合格できる力を付けることが出来ると思います。

5. おわりに

これからの農業農村整備事業において、冒頭にも書きましたが、農業水利ストックマネジメントや耕作放棄地対策・農地集積や転作作物管理など、

農地や農業用施設を保全管理していく上で、情報管理は必要不可欠な存在と言えます。また、近年の異常降雨や豪雪など、災害時のハザードマップ作成に大きな力を発揮するのではないのでしょうか。

膨大な可能性を秘めた地理情報システムの構築に対して、一人でも多くの専門技術者を育成し、情報の蓄積・共有・利活用の観点から、農業農村整備事業の発展に寄与すべく、「農業農村地理情報システム技士講習・認定試験」をより多くの方々に受講してもらいたいと考えます。

私自身、「農業農村地理情報システム技士講習・認定試験」を受講・受験し、非常に役立つ知識を身に付けることが出来ました。まだまだ入口に立ったに過ぎませんが、これからも切磋琢磨し、「農業農村地理情報システム技士」としての名に恥じないよう、また、農業農村整備事業の推進に役立てるよう、頑張りたいと思います。